

学校だより



# ひがし

平成30年10月5日発行  
第17号  
伊豆市立修善寺東小学校  
TEL0558-72-0420

◆学校教育目標「よく学ぶたくましく心やさしい東っ子」◆重点目標「一人で挑戦！みんなで挑戦！」

## 全国学力・学習状況調査の結果と考察

4月17日に行った全国学力・学習状況調査の結果と考察をお知らせします。下の表は、全国と静岡県の平均正答率と本校6年生の結果を比較したものです。この調査の目的は、「各学校が児童の学力や学習状況の現状を把握し、子どもたちの学力向上のための取組に生かしていくこと」にあります。本校でも全教職員で結果を分析し対策を考えました。各学年の日々の授業に生かすとともに、子どもたち一人一人の実態に応じたきめ細かな指導方法を工夫・改善し、学力向上に取り組んでいきます。

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3
静岡県	69	56	63	51	60
本校	△	△	△	△	△

◎両方を上回った ○どちらかを上回った △全国・県ともに下回った

### 【教科に関する調査の結果と考察】

★本校の平均正答率は、国語A・B、算数A・B、理科とも、全国・県平均を下回る結果となり、国語・算数では、B問題（活用に関する問題）よりA問題（知識に関する問題）の正答率が、全国・県平均との差が大きいことが分かりました。分析を進めると、国語のA問題で、38%の子が「解答時間が足りなかった」と答えており、無解答率も高いことが分かりました。前半の文章の読み取り問題に時間をとられ、後半の漢字の問題までやりきれなかったことが、正答率が下がった原因の一つだと考えられます。算数のA問題も個人差はあるものの、同様の傾向が見られました。



「時間の見通しをもって問題に当たる」ことも、大切な力であることを改めて感じました。

★国語Aでは、漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られました。今年は、漢字をそのまま書くのではなく、例えば、「せっ極的」の「せき」は「面せき」「成せき」「せき任」のどの漢字と同じかを選択する形式だったので、時間不足とともに設問形式への戸惑いもあったかもしれませんが、他の「設備」「消毒」なども正答率が低かったです。漢字の持つ意味を考えながら適切に使えるよう、形式的な漢字練習にとどまらず、漢字に興味をもち親しめるような工夫や、日々の生活の中で漢字を使うこと、書いた文章を読み返すことなどを習慣付けていきたいです。国語Bでは、話す・聞く・書く力に比べ、読む力に課題が見られました。伝記を読んでさらにどのようなことを知りたくて別の本を読んだのか、複数の本を比べて読んだ目的を捉える問題の正答率が低かったです。目的に応じて、複数の本や文章などを比べて読む学習を積み上げるとともに、決められた時間の中で長文を読むことにも慣れさせたいです。



★算数Aでは、円周率、小数の除法、混み具合など基本的な意味が理解できていないための誤答が目立ちました。体験や具体的な操作を授業の中に取り入れ、理解を確かなものにしていきます。算数Bでは、条件を変更した場合の数量関係を、示された表現方法を適用し

て記述する問題の正答率が低かったです。与えられた複数の情報を関連付けて考え、適切に表現する力に課題があります。授業はもちろん、日常生活の中でも複数の情報に接する機会を設け、関連付けて活用する力を伸ばす指導を工夫していきます。

★理科は、「活用」に関する問題の正答率が低かったです。結果を考察するとき、問題に対応した視点で分析することや必要な情報を選択すること、学んだことを他の場面や日常生活に適用する力に課題が見られました。授業の中でも問題・結果・考察という流れを日常的に意識させ、視点を明確にしてまとめを書く学習を大切にしていきます。

#### 【児童質問紙調査の結果と考察】

★学習習慣（家で計画を立てて勉強をしているか、宿題をしているか、予習・復習をしているか）と規範意識（学校のきまりを守っているか、いじめはどんな理由があってもいけないことか、人の役に立つ人間になりたいか）については、全国平均に比べてきわめて高い結果でした。また、生活習慣（同じくらいの時刻に寝ているか、同じくらいの時刻に起きているか）についても高い評価となり、ご家庭と連携しながら進めている「凡事徹底」を基盤にした取組が、成果となって表れていることが分かりました。



★自尊感情（自分にはよいところがあるか、先生はよいところを認めてくれているか、将来の夢や目標を持っているか）の領域は、他の領域に比べるとやや低い結果でしたが、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」を合わせた肯定的な回答の子の割合は、全国より高くなり、改善傾向が見られます。「当てはまる」と自信をもって答えられる子がさらに増えるよう、よさを実感できるような取組をこれからも継続して行っていきます。

★「放課後や週末の過ごし方」では、「スポーツ（習い事も含む）」と「テレビやビデオ・DVD、ゲーム、インターネット」と答えた子の割合が全国平均より高かったです。特に、「テレビなどをして過ごしている」という子の割合は90%を超えていました。「新聞」をほとんどまたは全く読まない子、「ニュース」を見ていないという子の割合も高かったです。また、地域の行事への参加はきわめて高い結果となりましたが、「地域や社会で起こっている問題や出来事」への関心、「ボランティア活動への参加」などについては全国平均を下回っています。与えられた場では活動できるものの、自発的に働きかけたり自分から進んで主体的に取り組んだりする姿勢には課題が見られます。

★「算数への関心」は高いのですが、「理科への関心」は全国に比べ低いことが分かりました。観察や実験は好きで、自分の考えを説明したり発表したりしているものの、振り返って次につなげ、「不思議だな」「もっと知りたい」という追究意欲にはなかなか結びついていない傾向がうかがえます。理科の面白さに気付くような、より魅力的な授業を工夫していきます。



★「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」や「考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していたか」には肯定的な回答の割合が高く、学びの基本である「聞く・伝える」力が着実に身に付いていることが分かります。今後も「全員発表」に取り組みながら「学び合う」授業づくりを推進し、主体的に学ぶ姿をさらに求めていきます。

分析していく中で、東小で進めている「凡事徹底による生活や学習の基盤づくり」が保護者の皆様の協力を得て、着実に根付いていることを感じました。ただ、時間の見通しをもって物事を進めたり、学んだことを次に生かしていったりする力を、個に応じてこれまで以上にきめ細かく支援し、伸ばしていけるようにしていくことが、子どもたちの確かな学力につながっていくことを再確認しました。今後も、保護者の皆様と同一歩調で、さらに連携を深めながら子どもたち一人一人の生きる力を育んでいきたいと思っております。